

とありしに拘泥したる爲にや、郵便用文には乾燥無味にして何等の趣致なきもの多かりき、假令實際の用事を主題となすとも、人を動かすに足る佳作の成らざる理なし、諸姉の奮勵を望む、こは此作者に就いていふにはあらざれど、序なればこゝに。

三等 學資に添へて都の姉へ

岩代須賀 服部水仙子  
川本町

この二三日の暖くなりましたこと、蠶が出そるな氣候になりました。東京はさぞ暖かてせうね、もし過ぎると花も盛り、それに博覽會があるのでどんなにか賑かになるてせう。家からは誰れも行かないことに決めました。でも若しかすると母様一郎を連れて行くやうになるかも知れません。かもですよ、だから當にしないて待つてゐらつしやい。

父様はゆうべ、夜汽車で宇都宮まで、四五日かゝるか知れませんが、それで私に是を送るやうに言ひつけて行きましたの。今月のは定額より少し多いてせう、これは母様がそつと増して下さつたのです旅に居れば何かと心細いものだからつて。だけどお前またリポンを送れの何のつて言つて遣つてはいけないう、だつて。いくら私だつてさうく姉さんの懐をいぢめやしませんわねえ。

昨秋は油断して、裕を催促されて手ん手古舞したから

今度はまごつかないやうにと思つて、きのふから縫ひ初めました、縞柄は私のよりずつと派出なのよ母様が、これではいくらなんだつてあんまりだと仰言るから私、いつか送つて戴いたあのお友達の寫眞を出して来て、ホラ此通り皆派出なのですものつて言つたら、さうねつて黙つてしまひましたの、だからそれにしました、實際東京は派出なんですものね、田舎の人は驚いてしまふわ。いくら飛んでも刎ねても綻びないやうにしつかり縫つてあげませう、よその學校と違つて運動ははげしく無いてせうけれども。これからはそろ／＼畑が面白くなつて來ます。私もちよい／＼出て見る積りよ、今も母様について菜を取りに往つて、來たところ、那須山の煙りがよく見えましたつて。

(評) 流暢にして洒脫。

四等 聯隊なる兄へ

下總佐倉 小永井郁子  
宮小路

餘寒未甚しく候處兄様には御機嫌美しく御勤め遊ばされ候由御目出度御嬉び申上候先達御送り下され候御うつしゑ一同御嬉びにて拜見仕り候美々しき軍服長き劔